

総合的な学習における「飼育」の指導

西東京市立保谷第二小学校

1、単元名 飼育を通して（第4学年）

2、単元の目標

- ・動物の飼育体験を継続して実施することにより、生命尊重の心を育てる。
- ・動物に対する興味関心を高め、飼育の過程で生じるさまざまな課題に創造的に取り組める資質を育てる。

3、評価規準

学習活動への 関心・意欲・態度	総合的な思考・判断	学習活動に関わる 表現	知識を応用し 総合する能力
動物の飼育に興味を持ち、自分から進んで世話をしようとする。 思いやりのある態度で動物に接したり交流しようとする。 友達や3年生に飼育の仕方や様子を伝えようとする。	毎日の世話は苦勞も多いが、その地道な活動が命をつないでいることを考えることができる。 生き物と人間の関係について調べたことを基に、相互のかかわりについて考えることができる。	体験したことをさまざまな方法で、ほかの人に伝えるためまとめることができる。 引継ぎ集会の計画・実行にあたり自分なりに伝え方を工夫することができる。	動物の世話の仕方には、それぞれ理由があり、そのときの状態に応じた接し方に気づくことができる。 生き物の特徴や、人の違いに気づくことができる。

4、年間指導計画（35時間扱い）の中は、時数。

- ・4月・・・初めての飼育活動開始。仕事の手順、当番のローテーション、休日飼育等の確認。保護者会での説明。（生命尊重、使命感、心の成長、親子飼育ボランティアの説明。）
- ・5月・・・次の学級への引継ぎ集会。
飼育入門オリエンテーション（獣医師との連携）
- ・6月・・・飼育新聞作り - 1。ニュース仕立てにした発表会。
- ・7月・・・夏の間の飼育方法の確認、当番の分担。夏の飼育活動。
- ・9月・・・「動物教室でさらに関心を高めよう」（獣医師との関連）
- ・10月・・・飼育新聞作り - 2。
- ・11月・・・動物の気持ちを感じて学芸会に取り組もう。
- ・12月・・・冬の間の飼育方法の確認、当番の分担。冬の飼育活動。
- ・1月・・・引継ぎ集会の持ち方。プログラム、資料作り。
- ・2月・・・3年生への引継ぎ集会。
- ・3月・・・3年生飼育見習い期間。（3年生と共に飼育をする期間）

* 休日も含めて毎日の常時活動を当番制で実施する。

5、他教科との関連

- ・国語・・・体験したことから文章は溢れるように出る。飼育新聞作り二回を通して表現させる。また、作文教材と関連させた指導が効果的である。学習発表会「ぞう列車よ走れ」等の台本作り、演技の取り組みでは、飼育体験の感想をセリフにしたり、飼育動物と登場する動物との違いや共通点を考えながら演技を考える指導。
- ・理科・・・季節による動植物の変化の単元の、生命の連続性と関連させる指導。また獣医師の支援を得て子どものもつ疑問を掘り下げ、新たな疑問・事象のつながりに興味を持てる指導。
- ・体育（保健）・・・「育ちゆくわたし」の単元で体の成長や、第二次性徴と関連させる指導。
- ・図工・・・愛情をもってかかわっている動物に対して、興味を持って観察するため大きな表現力を発揮することが見られる。
- ・道徳・・・弱いものを支配しようとする潜在的な心情や独占欲に気づき、初めて相手の立場を思いやる心が育つ。「してあげる」から「してほしいのかな」という同等の立場まで深まってくることで対等の関係ができる。ここまで意識が高まる「飼育」は、道徳的価値の高い体験活動といえる。